

特集

【臨床編】 ヒト前立腺組織を用いて 炎症と下部尿路機能障害との 関連を考える

稲村 聡

福井大学医学部泌尿器科学

Key Words 慢性炎症, リンパ球ホーミング, HEV-like vessel, Pressure-Flow Study, 下部尿路閉塞

前立腺肥大症 (benign prostatic hyperplasia ; BPH) 患者において, 慢性炎症は病態の形成, 病勢の進行に関わる重要な因子の1つである。原因は, 細菌感染, 尿の逆流による化学的な炎症, 食事, ホルモン, 自己免疫反応などが考えられており, これら複数の要因が複雑に絡み合っただけで病態が形成されているものと考えられる。慢性炎症は一般的に, 組織へのリンパ球の浸潤と定義され, 高内皮細静脈様血管 (high endothelial venule-like vessel) を介して起こる。これまでのBPHと慢性炎症に関する研究をまとめると, 慢性炎症は前立腺体積の増大, 機械的・機能的閉塞の増強, 機能的膀胱容量の減少, 排尿障害に関する自覚症状の増悪に深く関与していることが示唆される。

緒言

前立腺肥大症 (benign prostatic hyperplasia ; BPH) 患者において, 慢性炎症は病態の形成, 病勢の進行に関わる重要な因子の1つである。前立腺の慢性炎症の原因については, 細菌感染, 尿の逆流による化学的な炎症, 食事の影響, ホルモン, 自己免疫反応などさまざまなものが候補として考えられているが, いまだはっきりとした結論は得

られていない。おそらく, これら複数の要因が複雑に絡み合っただけで病態が形成されているものと考えられる。

BPHの手術で採取した組織を検証すると報告によって差はあるものの, 43~98%の症例で炎症が存在するといわれている^{1)~3)}。本稿では, 慢性炎症の組織学的な発生メカニズム, 前立腺の組織学的な炎症と下部尿路機能障害の関連についての研究を紹介し, 前立腺の炎症の下部尿路機能障害への影響を考察する。

So Inamura (助教)